

Factors related to skeletal muscle mass in the frail elderly

学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2015
学位授与番号	32667甲第1121号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000763/



虚弱高齢者の骨格筋量に関連する因子について

佐川 敬一朗

論文内容の要旨

高齢者が身体機能を維持するためには骨格筋量の低下を予防することが重要である。本研究は、75 歳以上の在宅要介護高齢者 310 名(男性 94 名、女性 216 名、平均年齢 85.4 ± 5.3 歳)を対象に、バイオインピーダンス法を用いて骨格筋量の測定を行った。咬合支持の有無、嚥下障害の有無、日常生活動作能力、認知機能、栄養状態、Body Mass Index (BMI)を計測し、骨格筋量との関連を検討し、以下の結果を得た。

1. 男性において、骨格筋量と有意な関連を示した項目は、咬合支持の有無、嚥下障害の有無、栄養状態であった。
2. 女性において、骨格筋量と有意な関連を示した項目は、日常生活動作能力、栄養状態、BMI であった。
3. 多変量解析の結果、骨格筋量と有意な関連を示した項目は、男性では咬合支持の有無、栄養状態であり、女性では栄養状態であった。

論文審査の要旨

本研究は、要介護高齢者のサルコペニアの指標である骨格筋量と咬合支持、嚥下機能、日常生活動作能力、認知機能、栄養状態、BMI との関連を検討し、栄養状態の低下は骨格筋量の低下因子となり、男性では咬合支持の喪失が骨格筋量の低下因子になることを明らかにしている。これらの知見から、咬合支持の維持が高齢者の骨格筋量の維持に有用であることを示す重要な示唆を与えており、歯学に寄与するところが多く、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。

主査 志賀 博

副査 今井 敏夫

副査 五味 治徳

最終試験の結果の要旨

佐川敬一朗に対する最終試験は、主査 志賀 博教授、副査 今井敏夫教授、副査 五味治徳教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。